

経口維持加算実施に向けて

～多職種連携の中、介護職として見えてきたこと～

介護老人保健施設 エンジェルコート

介護福祉士 笹沼 博人 山口 志津枝

【 はじめに 】

当施設では、介護保険導入時より口腔ケア委員会を立ち上げ利用者様の口腔内清潔保持の取り組みを行ってきた。H21年より併設病院の歯科医師・歯科衛生士が入所フロアのラウンドを行い利用者様の口腔内をチェックするようになり、より適切な口腔ケアが提供できるようになってきた。しかし、年々重度の利用者様の入所が増え、摂食障害の事例も増加していった。H29年にはそれまで単体の活動であった口腔委員会と給食委員会が合同で話し合う場を設け、「摂食・嚥下」へのアプローチを協議するようになった。

主体メンバーは管理栄養士、ST、看護、介護だったが、医師、歯科医師、相談員、施設ケアマネ、事務職との共働が増えていった。

今年度より経口維持加算算定の取り組みを始めるにあたり、多職種協働の実践の中で浮かび上がってきた介護職の役割を考察したい。

【 経口維持加算算定の流れ 】

加算算定を開始するにあたり、STが全職員向けに施設内勉強会を行った。

- ・ 超高齢化社会に突入している今、健康を維持していくためには「食事」をいかにしているかが重要。
- ・ そして「口からおいしく安全に食べる。」が大事。
- ・ エンジェルコートにおいても摂食機能障害を有する利用者様が数多く存在する。

上記を確認して、「経口維持加算における各職種の役割」と「経口維持加算の流れ」の講義を受ける。

【 各職種取り組みの実際 】

【 介護職から見た各職種の特徴 】

【 他職種が介護職に求めるもの 】

※ 当日図表・画像にて発表します

【 まとめ 】

食事の支援は、嚥下だけではなく、口腔面や栄養面、食事環境や内容、姿勢や動作、介助法など、多方面からの支援が必要だと感じた。

介護職は利用者様の生活に身近に携わっているので、日々の観察・状態変化の情報を他職種に伝える役割がある。利用者様一人ひとりの課題を多職種チームで共有し、対策を練り実践する中で、いつまでも口から食べる楽しみを持ち続けて頂けるよう支援していきたい。

